

レモン新品種「イエローベル」を品種登録



～果汁が多くてまろやかな酸味～

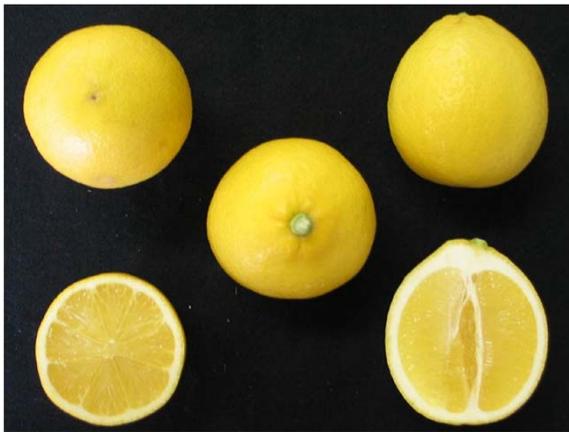
研究期間 | 平成22年～23年度[県費研究]

研究開発のきっかけ

- ◆ 本県産のレモンは日本一の生産量であり、重点品目として面積拡大を進めています。
- ◆ 「広島レモン」の付加価値向上と、さらなる需要拡大を図るために、特徴のある品種が求められています。

研究成果の概要

- ◆ 県オリジナルのレモン品種として「イエローベル」を育成しました。本品種は道谷系「ピラフランカ」の自然交雑実生から選抜した三倍体(種無し)で、レモン種としては日本初の登録品種です。
- ◆ 果形は球形～鈴形で、成熟期の12月には、ほとんどの果実が出荷基準の横径55mmに達するため、年内一斉収穫が可能です。
- ◆ 果汁割合は、既存のレモンに比べて10%程度高く、酸味はまろやかです。なお、果汁は、レモンジュースのJAS規格に適合しています。
- ◆ 枝は発生数が多く節間が短かいので、樹形はコンパクトです。かいよう病に対しては、既存のレモンと同様の防除が必要です。



研究成果の活用状況

- ◆ 「イエローベル」は、平成24年3月23日付けで品種登録(第21709号)されました。
- ◆ 現在、県内産地23ヶ所で、現地適応性を把握するために試験を実施しています。